

# 静と動をつくる まちの縁側

## — 広場をつかいつくす —



隅々まで

この計画は、南北2つの広場の周縁部に縁側を設け、周辺環境を緩衝させながら、日常・非日常において活気を与え、アリーナまでの道筋を有機的に繋げる提案です。

また縁側を配置することによって、日常休憩できる「静」の空間、芝生エリアなどにおいて祭日時に活気溢れる「動」の空間が現れ、広場に「静と動」のグラデーションが生じます。このなかで日常的に自然と生まれる「小さなあそび」と、祭日の「大きなあそび」が同調することで、隅々までつかいつくされ賑わいが続く広場となります。

### 【課題】空間の分離



### 【改善】広場の周縁からつくる（縁側・祭日ストリートの整備）



### 【空間活用の問題点】

- ・ 駅舎と2つの広場の繋がりが見えない
  - ・ 駅からの見通しが取れていない
  - ・ 植え込みによる閉鎖性（エッジ）
  - ・ 植え込みにより沿道（長根街道）からイベントの様子が見えにくい
  - ・ 高架下の駐輪場活用によるエッジ
  - ・ オブジェの多さによる一体感の不在
  - ・ 広場全体を一体として使えない
  - ・ < 夜間 > 非効率な機能照明
  - ・ < 夜間 > 高架下が暗く見通しが悪い
  - ・ 広場に日常の気配が無く、非日常との繋がりが見えにくい
- エッジによる空間の分離が課題です。

### 【改善点】

- ・ 植え込みを撤去し、縁側空間（パーゴラ＋ポリカ屋根）を整備
  - ・ 立体駐輪場の整備と高架下空間の活用
  - ・ JR 駅前にデッキ、自由通路に中間デッキを整備し広場への見通しを改善
  - ・ 長根街道の歩道拡幅によりアリーナへの見通しを改善
  - ・ 縁側沿った連続的な演出照明による夜間の防犯効果
- エッジを解消する中間領域（縁側）が分離した空間をつなげます。  
→広場の周縁に日常の賑わいと愛着が生まれます。

### 【静と動のグラデーション】

- ・ 縁側整備により「静と動」を演出
- ・ 「静」は日頃人々が休める居場所として日常利用が可能な空間（周縁）
- ・ 「動」はフリースペースであり祭日においてはメインとなる空間（中心）
- ・ 「静と動」のグラデーションの間に祭日ストリート（連続的な舗装）を整備
- ・ 祭日ストリートをキッチンカーストリートで挟み非日常時の賑わいを演出
- 静と動のグラデーションに「大きなあそび」「小さなあそび」が同調します。
- 日常と非日常の気配を感じられる広場になります。